# TV 報道検証【報道特集】　報告書

| テレビ局： TBS | 番組名：報道特集 | 放送日：2020 年 9 月 5 日 |
|---|---|---|

出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙
　　國本未華（気象予報士）

検証テーマ： オープニング、自民党総裁選、ミサイル阻止力へ首相談話
　　【特集】問われる密室の総裁選、【特集】ワクチン開発最前線その問題は

報道トピック一覧

・台風 10 号が徐々に接近中
・オープニング
・九州で河川氾濫の危険性高まる
・気象情報
・オンラインゲームで知り合った小 4 女児を誘拐した容疑で逮捕
・自民党総裁選
・台風 9 号により北朝鮮で試写
・胆振東部地震から 2 年
・ミサイル阻止力保有へ首相談話
・ベイルート爆発から 1 ヶ月
・東京で新型コロナ感染者の 2 日連続で 200 人未満
・17 年前のバラバラ殺人事件で南アフリカ潜伏の容疑者が帰国し逮捕される
・【特集】問われる密室の総裁選
・【特集】ワクチン開発最前線その問題は
・スポーツ報道

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

・オープニング：結論→やや問題あり

　番組の冒頭で金平キャスターによって「勝ち馬に乗るという意味を嫌というほど思い知らされた一週間でした。日本の次の首相は実質的に決まっています、こんな決まり方でいいんでしょうか。特集でお伝えします、リモートの理由ですけれども今週はじめに発熱があって病院で見てもらいました、熱もすっかり平熱に戻っていますけれども、大事を取って今週はスタジオを明けます、念のため、PCR 検査を受けましたが、陰性でした。それでは気になる台風のニュースです。」とのことが伝えられた。

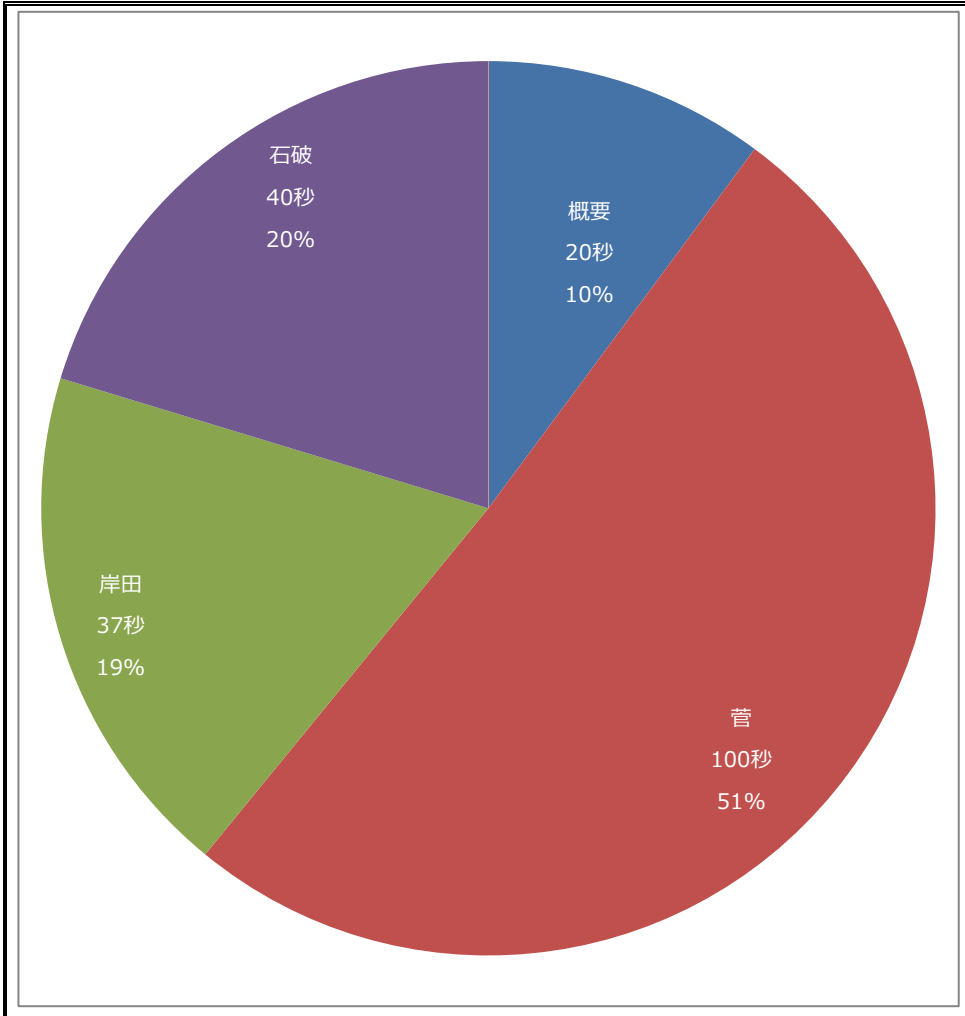
　このシーンに当てられた時間は 31 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・自民党総裁選：結論→特に問題なし

　日下部キャスターの「自民党総裁選です。菅、岸田、石破の三候補が立候補の表明以降、初めての週末を迎え地方票の獲得に向け各地で支持を訴えました。」とのコメントを受けて以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"川瀬善路（報告）「今、菅官房長官を乗せた車が到着しました。」

ナレ「総裁選への出馬表明後、初めて地元横浜を訪問した菅官房長官。菅氏は自民党神奈川県連の党員らを前に立候補に至った経緯を報告しました。」
菅義偉（官房長官）「これだけの国難、政治空白を許すことができない、そう思って総裁選挙に出馬する決意をいたしました。」
ナレ「党員を前に新型コロナウィルスの感染拡大防止と経済活動の両立を目指すと述べ、支持を訴えた、菅氏。国会議員票で優位に立つ菅氏ですが、陣営は地方票でも圧倒しようと各地で支持を訴えています。」
中山泰秀（細田派衆院議員）「あの、総裁選挙お世話になりますけれども、よろしくおねがいします。」
自民党員「できるだけ協力したい。」
中山泰秀「ありがとうございます。」
自民党員「だから票が集まるようにヒョウ柄に」
ナレ「地元大阪で市議会議員らに菅氏支持を訴えるのは細田派の中山泰秀衆院議員です。自民党大阪府連の一部は菅氏と大阪府の吉村知事など大阪維新の会との距離が近いことを懸念しています、維新は地元で自民党と激しく対立するため、地方票が菅氏を嫌い他の候補に流れるのではと警戒しているのでう s。」
中山泰秀「菅さんをですね、よろしくお願いしたいということは申し上げていきたい。」"
"ナレ「地方票の獲得に向け、岸田氏も山梨県を訪れ、県連幹部らに支持を訴えました。」
岸田文雄（政調会長）「『人は石垣、人は城』という言葉を思い出します。今日はこの人と人との御縁、これをぜひ大事にするためにも、総裁選挙を前にしてお邪魔させていただこう、」
ナレ「県連幹部らに支持を訴えると今度は静岡県に移動し、去年なくなった側近議員の墓参りをし、決意を伝えました。」"
"ナレ「一方、石破氏は」
石破茂（元幹事長）「一夜漬けってあんまりきかないものでしてね、やっぱりずっと地方を回ってきて話をした、それがどれだけ票になって出てくるかなということだと思います。」
ナレ「このところ、政権や党執行部と距離を起き、地方遊説を続けてきた石破氏、世論の支持を背景に地方票の獲得を目指しますが、今日は福岡で民放番組を出演後、都内で書展を見学、総裁選に向け英気を養いました。」"
ナレ「ポスト安倍へ、地方票獲得に向けて動きも激しさを増しています。」
　このトピックについて当てられた時間は 197 秒で、時間配分及び比率は以下の通りであった。




菅候補が重点的に取り上げられていたが、今回は特集でも総裁選について取り上げられており、放送法上は特に問題は見られなかった。

・ミサイル阻止力へ首相談話：結論→特に問題なし

ナレーションによって「新たなミサイル防衛体制の在り方をめぐり安倍総理が相手の領域内でも弾道ミサイルを阻止する能力の保有に向けて、年内に結論を得るという考えを盛り込んだ総理大臣の談話を来週後半にも出すという方向で最終調整に入ったことがわかりました。退陣を前に安倍総理としては事実上の敵基地攻撃能力の保有に向けて一定の方向性を残しておきたい考えです。」とのことが伝えられた。

このトピックについて当てられた時間は 27 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】問われる密室の総裁選：

膳場キャスターの「特集です。自民党総裁選挙は早々と、全国の党員投票を行わないということが決まり、密室の選挙だとの批判が高まっています。」とのコメントおよび、日下部キャスターの「大派閥が雪崩をうつように、菅官房長官支持を表明しましたが、次の総理の決め方、それでいいんでしょうか？」とのコメントを受けて、以下に朱記したような特集の VTR が取り上げられていた。

ナレ「会場には大勢の報道陣が待ち構えていた。」

膳場「えー今、菅さんが会見場に入ってきます。党内の五つの会派から圧倒的支持を受けての出馬表明です。出来レースといえるような状況ですけども、本人は一体何を語るんでしょうか？」

菅氏「安倍総裁が、全身全霊をかけてすすめてこられた取り組みをしっかり継承し、さらに前に進めるために、私の持てる力をすべて尽くす覚悟であります。」
ナレ「強調したのは、安倍政権の継承だ。」
膳場「安倍政権の負の遺産、森友、加計学園、国民が納得していない事案であって、再調査を求める声が挙がっています。」
菅氏「森友問題については、財務省関係の処分も行われ、検察の捜査も行われて、すでに結論が出ていることでありますから、そこについては現在のままであります。」
菅氏「加計についても、法令にのっとりオープンなプロセスで検討が進められてきたというふうに思っています。」
ナレ「この問題に対し、この二人は・・」
"石破氏　「政治がなんかごまかしてんじゃないの？嘘を言ってるんじゃないの？そういう思いがある限り、納得にも共感にもなりません。」
石破氏　「政権に入ったのちに、何がどういう問題であるのか、そういうことの解明をまず、第一にいたす。必要ならば、当然やるということです。」"
岸田氏「実際、どうだったのかということについて、話を聞くということは、当然、しなければならないんではないかと思います」
ナレ「今回の総裁選は党員投票は行わず、国会議員票が全体の 4 分の 3 を占める両院議員総会で選出することが決まった。」
ナレ「自民党所属の国会議員票と、都道府県票を合わせた５３５票で争われる。しかし、派閥の票から推計すると、菅氏の支持は国会議員票の 7 割以上に及ぶ。告示前にもかかわらず、菅氏圧勝の様相を見せている。」
ナレ「既に、派閥による主導権争いが起きているとの声も。」
麻生氏「主導権なんて、別にこんなこと、主導権なんて争ってもしょうがないですから。はい。」
ナレ「事実上次の総理を選ぶ総裁選挙。その手法に批判の声も挙がる。」
男性「最初に両院議員総会ありきでやっているということが、強い憤りを覚えました。」
（CM）
ナレ「劣勢が伝えられる石破茂元幹事長。こんな場面も報道陣に公開した。」
"記者「日本の虫歯はどこにあるのかなーとおもいまして。」
石破氏　「そうね、だから、定期的にきちんと見ていかないと、放っておくと、後で、大変なことになりますよってことですね。」"
ナレ「納得と共感がキャッチフレーズの石破氏　。その選対本部長を勤めるのが、山本有二元農水大臣だ。今回の総裁選への覚悟を明かす。」
山本氏「今まで３回、総理になるかもしれないという闘いをしました。しかし今回の戦いが、一番きつい。一番負けが確実。しかしやる意義は、一番あるかもしれないと。派閥の合従連衡だけで、総理を決めるということになると、国民目線からはずいぶん遠のいてしまうと。」
ナレ「しかし、その山本氏も、当初、菅氏が出馬すると知った時は、勝ち目がないから断念するよう説得したという。」
山本氏「石破さん、これで終わってもいいの？と、終わるよと。政治生命も終わるし、全ての石破さんのこの世界へ懸けた、今までの過去の実績も、全て終わるよと。それでもいいの？ということを、念に念を押して、ずっと聞いてきました。」
ナレ「だが、石破氏は、態度を変えなかった。山本氏は、負けたとしても、どう負けるかが大事だと話す。」

膳場「どういう負け方だったら理想的でしょうか？」
山本氏「マスコミの方々がこれぐらい取るんじゃないかというのよりも、１票でも多くとったら、すーごい私は幸せです。」
ナレ「そして、この人がも・・」
岸田氏「皆さんどうも、お世話になります。衆議院の岸田になります。お世話になります。」
ナレ「各派閥からの支持を取り付けられず、孤独な戦いを強いられている岸田文雄政調会長。出馬を表明して以降、積極的に党所属議員の事務所を訪ね、指示を訴える。」
"岸田氏「どうも、いつも大変お世話になりまして、ありがとうございます。」
ナレ「狙うのは、各派閥の票の切り崩しだ。」"
"猪口氏「初出馬でいらっしゃますね。」
ナレ「その傍らで、岸田氏を支えるのは、林芳正元文科大臣だ。」"
ナレ「自身も８年前の総裁選に出馬した経験者として、陣営の選挙対策を取り仕切る。今回、党員投票が実施されないことについて、林氏は」
林氏「これはねーもう、こうなったんで、今からいってもしょうがないので、決められた条件の中でね、ベストを尽くすということですが、まあこれ、日々、一日ね、刻々と状況は変わると思いますね。」
ナレ「情勢を変えようと、連日、分刻みのスケジュールで選対会議をこなす。」
林氏「今日は特に大事であります。この国会議員の対策につきまして、お集まりいただきました。」
ナレ「岸田派の議員らはチームに分かれ、まだ態度をきめていない国会議員や、各都道府県連に働きかけを行っている。」
"記者「現状、票読みなど、状況はいかがですか？」
林氏「大変、厳しい状況であると、こういうふうに思いますけれども、まだ時間がありますので、」"
"記者「谷垣グループあたりは？」
林氏「そうですね。いろんなところに、今までの関係をね、つたっていかなければいけません。」"
ナレ「当初、禅譲を画策していた岸田氏は、おととしの総裁選では、安倍総理の支援に回り、出馬を見送った。しかし、今回、立候補にあたって、安倍総理に指示を求めた際、帰ってきた答えは。」
安倍総理（ナレ）「”総理を辞める立場では、個別具体的な名前を出せない”” それは勘弁してほしい”。」
ナレ「岸田氏に対する党内の支持が広がらなかったことが一因だとされている。」
ナレ「急ピッチで製本作業が進められているのは、岸田氏が政権構想についてつづった初の著書だ。タイトルを岸田ビジョンと名付けた編集担当者は・・」
浅川氏「まず、音がよくて後呂がいいのと、会長の名前そのものとそのビジョン。将来に、向かっての、意思みたいな意味を含んだ言葉を組み合わせて」
ナレ「今月１５日に発売される予定だったが、総裁選に間に合わせるため、急遽１１日に発売日を前倒ししたという。
ナレ「著書の中で、岸田氏が挙げたスローガンが、今回の総裁選でもかかげた”分断から協調へ”」
本「経済における分断、社会の分断、世界の分断を『協調』へと導く。アベノミクスのもとで増えた富は、誰の手に渡っているのか。」
ナレ「出馬を機に、これまで課題だったとされる独自色の発信を加速させる岸田氏。」
ナレ「連日、家族をも巻き込んで、メディアへの露出を増やしている。」
日下部「なんかいろいろ岸田さんこうやっていろんなものさらけ出したほうが、いいかもしれませんね・・・」

林氏「いやーもうね、毎日化けてますね。本当にね。まあいろんな人からもう、これ、せめて１か月前からこうやって、やってくれればとかなんとか言われるくらいね。」
ナレ「菅氏の優勢が伝えられる中、陣営が見据えているのが、１年後に改めて行われる予定の総裁選だ。」
日下部「岸田さんの頭の中にはもちろん来年のこともあるわけですよね。」
"林氏「最後の結果がもちろん一番大事ですが、戦いぶりっていうのもね、非常に大事なことだと思ってますので。」
林氏「まあ当然そういう政治日程も踏まえてね、えー我々共通認識で持っておかないといけないと思いますね。」
"菅氏「新しい元号は、レイワであります。」
ナレ「一方、圧倒的な優勢が伝えられる菅義偉官房長官。神奈川県に選挙区がある菅氏だが、出身は秋田県だ。」
ナレ「３年前の衆院選で、故郷秋田での応援演説に駆け付けた際には、秋田弁を披露した。」
菅氏「大舘市の皆さん、お晩だんしぇ。寒いところこんなにいっぺ来てくれて、本当に良かったっす。」
ナレ「イチゴ農家の長男として生まれ、１８歳の時に東京で自分の力を試したいと上京。段ボール工場に就職した。その後、働きながら勉強を続け、法政大学に入学。２６歳の時に政治の道を志し、小此木彦三郎元通産大臣の秘書を経て、横浜市議を２期勤めた。」
日下部「よろしくお願いします。名刺に菅さんの写真」
ナレ「横浜市の田野井一雄市議。横浜市議時代の菅氏の一期先輩にあたり、それから３０年以上の親交がある。まだ新人だった時の菅氏について、」
田野井氏「実は昔、長老政治で横浜市議会も、次の議長がこれだって（言ったら）菅さんがこうやって、だっと手を挙げて、『それは先輩おかしいんじゃないですか』と、『私の１期生でね、選挙で入ってきたんだから、１期生の意見も聞いてくださいよ』と、『生意気言うな』とかって、激しい人がいたんですよ。それを完璧に論破して。『分かった』と。」
ナレ「国会議員の秘書だった経験を活かし、１年目から目立っていたという。」
田野井氏「市会議員時代にもですね、本当に、要するにね、役人を使いまわすんですよ。影の市長だといわれるくらいですね、小此木彦三郎さん時代に本人ができないことは、全部菅さんがやってたわけですから。」
ナレ「今でも、週に一度は連絡を取り合う中で、菅氏から総裁選の出馬について、こんな電話があったという。
田野井氏「田野井さん俺は、最後の最後まで、自分は出るっていってないのに、マスコミが勝手にね・・なってるんですよ。それで出るときもいち早く電話があったんですね。『やっぱりこれはやらざるを得ない』と、いうことで電話がありましたそれは。」
日下部「長いお付き合いの中でね、総理、自らの総理、への意欲みたいなものはちらっとでも垣間見たことがありますか？」
田野井氏「いやーそれは無かったね。無かったですよ。それが彼の持ち味だと思いますよ。そういう浮っついたね、絶対しない男ですよ。『俺はナンバー２なんだ』っていうことは、常にですね、こういってましたから。」
（CM）
ナレ「石破氏の選対本部長を務める山本有二氏。実は１４年前、第一次安倍政権誕生の立役者となった一人だ。」
ナレ「派閥を超えて、中堅若手の安倍氏拡大を目指した再チャレンジ議連。会長は山本氏。そして幹事長が菅義偉氏だった。山本氏は当時の菅氏の剛腕ぶりが焼き付いているという。」
山本氏「安倍総理を応援させてもらって、それで、勝つことが分かったから後からダッーと人が来る。それの払いのけも私は大したものだと思ったですよ。ええ。その能力が今日、安倍内閣を支えたことは間違いないでしょうね。ええ。」
ナレ「ただ、総理に最もふさわしいかどうかは、別問題だと山本氏は語る。」

山本氏「まあだから、腹構えも半端じゃないし、決めたら押し通しますし、強引ですし。それは頼りになりますけど、総理になった場合は、それだけでは済まないと思います。やっぱり丁寧な話しぶり、そして忍耐強い我慢の人でないと、続かないと思います。側近もついてこれないと思います。菅さんはここまでは、最高の人物ですよ。この官房長官として。それが総理として最高の人物までどうなるかっていう」

ナレ「菅氏のおひざ元からは、こんな動きが。」

ナレ「自民党神奈川県連は、今回の総裁選で割り当てられた３票の投票先を決める『予備選』を行う。」

男性「こういったあの、往復はがきがあります。今、印刷中であります。」

ナレ「県内の党員およそ、６万３千人に、投票用の往復はがきが発想される。得票が最も多かった候補者が３票全てを獲得する。１位総取りの形式だ。」

ナレ「党員投票を行わない形での総裁選びに、土井隆典神奈川県連幹事長は」

土井氏「まあこれは、誠に残念ですよ。最初に両院議員総会ありきでやっているということは、強い憤りを覚えました。当然逆にね、フルスペックの党員投票を模索したけれども、こうこうこういう理由でできないんだということを言ってくれれば、最初から納得するんですけれどもね。」

ナレ「党員投票が実現すれば、県内の党員全員が一票を投じることができるはずだった。」

ナレ「神奈川県連は、全党員による投票を行うべきだとして、二階幹事長に要請書を提出。およそ１０の県連や府連が同様の要望をしたが、叶わなかった。」

ナレ「自民党は、総裁、ひいては総理大臣を自分で選べることを党員集めのセールスポイントにしていた。この時は年４０００円の党員費を徴収するタイミングだが、」

土井氏「河合議員の問題、それでコロナで一軒一軒訪ねていいのかという話。そこに加えて、この党員投票を実施せず、両院議員総会でっていう話で、トリプルパンチでしたよね。ええそれを何もどうしようもないよと。『党費を集めるのも、本当に四苦八苦している』こういう声もそれは聞こえてきまして。」

ナレ「地方の声は、どこまで反映されるのか。総裁選は今月１４日、行われる。」

（CM）

特集の VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。

膳場「えー菅氏の会見に行きました。菅さんは官房長官として、長年支えてきた。つまり責任を共に負うべき立場なんですが、国民の政治不信を招いた様々な事案に対しては、もう終わってるかのように、幕を引こうとする姿が際立ちました。会見では、国民から信頼される政府を掲げてもいたんですけど、それならば、言葉を尽くす、行動をする。そうやって国民の信頼を回復するべきなんじゃないでしょうか。」

日下部「政治家の取材をしているとね、自民党というのは、野党がもっとしっかりしてほしいと思うぐらいですね、多士済々で人材がいるとおもうんですけど、安倍政権の７年半を振り返るとですね、官邸とその他大勢みたいな感じで、政治家の顔がなかなか見えてこなかったんですね。しかも政治家自身も官邸の方ばっかりむいて、本来振り返るべき有権者を見てもいなかった。これは一強政治の弊害だと思いますね。」

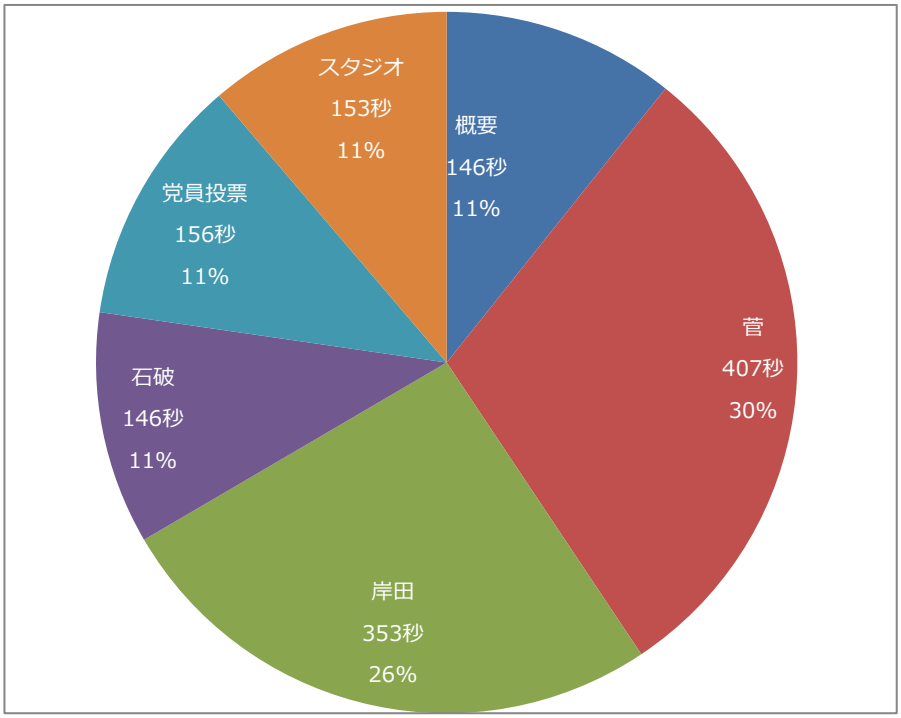
"膳場「金平さんどうでしたか？」

金平「あの、勝ち馬に乗るですね、その言葉のリアリティをこう、思い知らされたという気がしますね。辞書引きますとね、勝ち馬にのるってのは、勝ちそうな人や物の味方をして、その近くに行って、便乗して恩恵を得ることってあります。これは何も、あの、自民党の国会議員のみならずですね、霞が関の官僚組織とか、あるいは、自戒を込めて申し上げるんですけども、マスメディアの、私たちマスメディアの報道の仕方とかね、あるいは一部のテレビのコメンテーターとか、まあ私自身は非常に冷めた目でこの現実を見ています。」"

金平「ええそれで、これだけは言っておかなければいけないのは、先ほど膳場さんも言ってましたけれども、安

倍政権のその、負の遺産をね、これでさっと水に流していいわけはないと、その、菅氏は官房長官で政権を支えてきたわけですから、負の遺産のこう、紛れもない当事者であって、そのことに向きあう責任というのがあります。そのことを忘れてはいけないと思います。まあ総裁選でいえばですね、幕が上がった時にはもう既にショーは実際には終わっていると、さきほどいったそういった勝ち馬にのるというですね、国民不在の永田町の党のボス選びのショーのですね、尻馬に乗せられてはいないかどうかというをですね、その国のトップを選ぶという極めて重要な局面であることを考えればですね、私はまさに民主主義政治の危機を迎えているという思いますですね。」

この特集に当てられた時間は 1361 秒で、時間配分及び比率は以下の通りであった。




やや菅候補に厚みをもたせた取り上げ方となっていた。ただし、石破氏で選対本部長を務める山本有二氏に対して菅候補について聞くシーンは菅候補を取り上げた時間として処理しての上記の結果であり、その時間がおよそ 108 秒あり、この時間を石破候補および石破陣営を取り上げた時間とみなして処理すれば、三候補で大差のある結果とはならず、放送法上は特に問題はないと言えるだろう。

・【特集】ワクチン開発の最前線その問題は：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「さて次の特集はコロナです。安倍総理は先週、来年の前半までに新型コロナウィルスのワクチンを国民全員分確保する考えを示しました。」とのコメントおよび日下部キャスターの「ワクチンを求める性急な動きを懸念する声もあります。ワクチン開発の最前線を取材しました。」とのコメントを受けて以下に手記したような特集の VTR 取り上げられていた。

"ナレ「先週、辞意表明の直前、安倍総理は新型コロナのワクチンについてこう打ち出した。」
安倍総理「ワクチンについては来年前半までに全国民に提供できる数量を確保することを目指し、安全性、有効性が認められるものは国内産、国外さんの別を問わず供給契約の締結を順次進めていきます。」"
"ナレ「今、治療薬とともに人々が希望を託す、ワクチン開発。世界各国で研究が進み、その数は 160 種類以上にのぼる。日本でも今年 6 月、大阪で臨床試験が始まった。」
研究者「これが DNA ワクチンの原薬」"

"ナレ「健康な人な体に打つワクチンが果たして来年の前半にできるのか、加熱するワクチン開発競争にあえて慎重にドム研究者もいる。」
松浦善治「やはりいちばん大事なのは人に打つので毒性が出たり、副作用があったりしてはならないので。」"
"ナレ「ワクチン開発の最前線を追った。薬の町と知られる大阪のオフィス街、道修町、この場所にある少彦名神社には薬の神様が祀られ、病気の治癒や健康を祈る人が絶えない。2020 年願うのは。」
参拝者 A「コロナの収束を願ってきてますね。」
参拝者 B「薬剤車でもあるのでよくきてはお願いはしてます、早くワクチンができて、一刻も早く収束してくれたらいいなというふうには思いますね。」"
"ナレ「世界中が我先にとしのぎを削るワクチン開発に日本も遅れを取ってはならない。こうした政府の意向を汲むかのようにいち早く開発の着手を発表した石が入る。大阪大学医学系研究科寄附講座教授の森下竜一医師だ。」
森下竜一（大阪大学医学系研究科臨床遺伝子治療額、寄附講座教授、医師）「まぁ、今新型コロナウィルスに関しましては非常に多くの国民の方の不安があるんじゃないかというふうに思っていますが、DNA ワクチンという形で早期にですね、治療方法予防方法提供できるのではないかということで。」"
ナレ「ワクチンには様々な種類がある。毒性を弱めたウィルスを使う、生ワクチン、薬剤で処理し、感染力を亡くしたウィルスを使う不活化ワクチン。生ワクチンには BCG や MR ワクチン、不活化ワクチンにはインフルエンザや日本脳炎などがある。一方、今、世界中で開発が進むのがウィルスを使わないワクチンだ d。DNA ワクチンや RNA ワクチンと呼ばれている、新型コロナは表面の突起、スパイクと呼ばれる部分が感染に深く係る、このスパイクの遺伝子を使って作られたものが DNA ワクチンや RNA ワクチンだ。大量生産が可能だが、効果は未知数だ。
"日本で開発が進むワクチンも様々な種類がある、大阪大学の森下医師が作ったのはこのうち DNA ワクチンだ。公開されている新型コロナの遺伝情報からわずか二週間で完成させたという、」
森下竜一「これが DNA ワクチンの原薬。」
記者「原薬？」
森下竜一「溶かして実際に実験に使用する。」"
ナレ「新型コロナの DNA ワクチン。本物のウィルスを使わないため安全性は高いと強調する。DNA ワクチンや RNA ワクチンは最新技術を使った製造法だが、他の感染症でも実用化した例は今のところない。」
森下竜一「通常のワクチンを作る方法は鶏の卵を使うといいましたけれども、これ有精卵、生きている鶏の卵を使いますのでなかなかですね、数を確保できない、急に増やすことができないということで時間もかかりますし、大量生産も時間がかかるというのが特徴なんですが。一方で私どもが使う DNA ワクチンはですね、プラスミド DNA という先ほどのスパイクのタンパクを体内に入れる輪っかのような遺伝子があるんですが、これを大腸菌の中で増やしますので二週間程度で大量に増やすことができますので、大量生産ができてかつ、早く供給ができるというのも特徴になっています。」
ナレ「ワクチンを作るのはアンジェスという会社、前身は森下医師がおよそ 20 年前、自らが立ち上げた医療ベンチャーだ。森下医師の寄付講座はアンジェスや健康食品会社など 10 社による大学への寄附で成り立っている。ウィルスを扱ったことはなかったが遺伝子治療を研究してきた経験がワクチン開発につながったという。アンジェスには国から 20 億円の研究支援が早々に決まった。既に実用化を見据えている。」
森下竜一「私どもとしても一応年内に 20 万人分の生産ができるような、いま設備を整えていますけれどもそれでも数が非常に少ないのでやはり 100 万人 1000 万人ぐらいまではできるような体制は作りたいと思っていますが、まぁまだ今、その途中にあるというような状況ですね。」

"ナレ「大阪から、いち早くワクチンを、そのための研究に組織を超えて取り組もうと、今年 4 月、全国に先駆けて大阪府と大阪市、大阪大学と大阪市立大学、そして府と市の病院機構のトップが集まり、協定を結んだ。およそ 2 ヶ月後、大阪府の吉村知事は会見で大阪市立大学でワクチンの臨床試験を 6 月 30 日から始めると発表した。森下医師が開発し、アンジェスが作る DNA ワクチンを初めて人に投与するという。」
吉村洋文（大阪府知事）「第一歩を大阪で踏み出すことができた、そしてこれをなんとか量産して、実用化して府民の皆さん、それから国民の皆さんの命を守れる、そういったワクチンを是非実現したいというふうに思っています。」"
ナレ「通常、新しい薬やワクチンはマウスやサルなどの動物に投与し安全性と有効性を確かめてから人に投与する。臨床試験は三段階。フェーズ 1 では比較的少人数に投与して安全性を確認、フェーズ 2 では更に人数を増やし有効性を調べる。フェーズ 3 では 100 人以上を対象に偽薬と比較して効果があるか安全性を薬の承認を受ける。健康な人に打つワクチンは安全性が重視され数万人規模で実施されることがほとんどだ。疾患によってはフェーズ 1 で試された薬のわずか 5%しか承認までこぎ着けられないと言われ、開発には通常 5 年から 10 年以上かかる、臨床試験で最も大切なのは人に投与する前に開く審査委員会だ。安全性や副作用がないか第三者によって厳密に審査する。
ところが、吉村知事が臨床試験の開始を公表した 6 月 17 日、ワクチンの臨床試験を行う大阪市立大学ではこの審査委員会がまだ開かれていなかった。会見の一週間後委員会を開催。ワクチンの臨床試験はこの時初めて正式に承認された。会議の内容は簡略化された議事録以外、非公開のままだ。今回の件は臨床試験を軽んじていると批判や疑問の声が上がる。」
「普通はありえないことなんですね、だからかなりフライングしている、ということです。」
（CM）
ナレ「大阪で始まったワクチンの臨床試験。だが、第三者による審査委員会が開催される前に自治体のトップが公表するという異例の事態となった。
"薬やワクチンの安全性や有効性を評価する行政機関で審査員を務めた谷本哲也医師はありえないフライングだと指摘する。」
谷本哲也（PMDA の元審査員、医師）「どういう試験計画かということを第三者の目でチェックしてそれで判断するわけなので IRB にかけてやっぱりこれでは安全性を担保できないとかですね、計画に不備があるのでもう一回やり直せということは割とよくあることなんですね、ただそういう第三者のチェックを済ませる前に、もう始めますというのは明らかに常識的に考えるとフライングになると思います。知名度のある方とか影響力の大きい方がそういう発言をしてしまうと、第三者の客観的な判断が影響を受けてしまう可能性がありますよね、だからどうしても影響力のある方の意見をみんな忖度してしまうという自体が起こり得てしまうので、まぁそういう自体はやっぱりあの本来は望ましくないと思いますね。」"
ナレ「吉村知事は記者会見の発表についてワクチン開発で協定を結んでいる立場から目標を掲げ府民に知らせた、と後日釈明、計画通りワクチンの臨床試験ははじまり、アンジェスは先月 18 日、予定していた全員への投与を終了したと発表した。近く結果を公表するという。この DNA ワクチンを大量生産できる体制づくりのため、厚生労働省から 94 億円、更に新たな支援も決まった。成功を見越しての異例の事態はつづく。
"従来の慎重な手順では時間がかかりすぎると森下医師はスピード感を強調する。」
森下竜一「新型コロナに関していうと、ちょっと特殊なのは結果を待って順次いくと、おそらく多くの方にですね、ワクチンを供給できるのは来年の後半とか再来年になるんですね。」"
"山東昭子「サ案に賛成のみなさんの起立を求めます。」

ナレ「前のめりに開発が進むのは国の後押しがあるからに他ならない。6 月の補正予算ではワクチンや治療薬の開発に 600 億円、実用化を睨んだ生産ラインの整備などに 1500 億円の予算が計上された。新型コロナの研究に巨額の予算が当てられ、コロナバブルと一部で皮肉られるほどだ。ワクチンや治療薬に係る研究費は五年前に設立された AMED 日本医療研究開発機構を通じて大学や企業、研究機関に支援される、この機構は経産省、厚労省、文科省の 3 つの省が予算を投じて設立された組織だ。三島理事長に研究費の拠出の在り方について聞いた。」
三島良直（日本医療研究開発機構理事長）「まぁ、バブルで終わらせないようにっていうのは確かにそうなんですけれども、逆に言うとこういった感染病みたいなものがある意味国にとってはものすごい危機ですよね。このくらいのお金を出していただいた政府の決断も大きいですし、それに応えるのが我々の役目だと、そういうふうにしか今は思えない。無駄だったと言われないようには何を目的にやってどこまでやれて、その次はこういうふうにしたらいいっていうような事後評価みたいなものをきちっと一つ一つのテーマに土江出すという説明責任は勿論ございますので、」"
"ナレ「一方、ワクチン開発には手間と時間をかけるべきだと考える研究者もいる、設立 86 年目を迎えた大阪大学微生物研究所、ウィルス研究の第一人者で肝炎ウィルスが専門の松浦善治教授、今年 3 月末から新型コロナウィルスのワクチン研究を開始した。松浦教授は研究所の所長の座を退き、退官が間近だったが要請を受け、急遽取り組むことになった。研究に使用するウィルスは厳重に管理されている。ウィルスが拡散しないよう気圧を下げた陰圧室。その部屋にあるマイナス 80 どの冷凍庫の中に新型コロナウィルスが保管されている。ウィルスは中国武漢型と欧州型の二種類。手にしているのはこのパンデミックの始まりとなった中国武漢型。」
記者「あそこでさっき見せていただいたあの、冷凍されているのが。」
松浦善治「新型コロナウィルスです。不活化ですね、あれを増やしてするとか弱毒化するとかそういうことですね。」
記者「弱毒化はこのなかで。」
松浦善治「そうですね、ずっと細胞にウィルスをかけては回収して、またかけては回収してっていうのを繰り返すうちにだんだん細胞を殺さなくなったりするんですね。」
記者「攻撃力が弱くなる。」
松浦善治「はい、弱くなる、病原性が。」"
"ナレ「松浦教授が最も力を入れて取り組む VLP と言われるワクチン、新型コロナウィルスにそっくりな感染力のない粒子を作成する。画の細胞を使って増殖させるという。従来のワクチンの製造方法を踏襲しながら地道な研究は続く、スピード感よりも安全で確実な方法を選んだ。」
松浦善治「まぁ皆さん、夏までにはワクチンをと、よく言われますがそのワクチンというのはそんなにその簡単なものではないですね、やはりいちばん大事なのは人に打つので毒性が出たり、副作用があったりしてはならないので、そしてちゃんとした効果を色んな基礎研究できっちりと担保しない限り人には打てないので、どうしても 1 年 2 年はかかってしまうということは御理解いただけるかと思います。はい。」"
ナレ「更に、ワクチン開発には別の問題がある。長崎大学熱帯医学研究所のモイ・メンリン教授はワクチンの投与で症状が悪化することがあるという。蚊を媒介して感染するデングウィルスで明らかになった ADE 抗体依存性感染状況といわれるものだ、ワクチンを接種したにも関わらず感染するとむしろ重症化することがまれにあるという。身を守るはずのワクチンであってはならないことだ。デングウィルスの研究で痛感したという重症化、一体どういうことなのか。」
"モイ・メンリン教授「前にもこういったワクチンを作っていたんですけれどもなかなか開発が難しいんです。まぁその背景にはあの、この観戦増強という減少があるので、どうしてある一部の人が重症化するのか、またこの

ワクチンンを打つともしかしたら重症化するのではないか、ということがあるのでワクチン開発がもう 70 年間も何個空いています、このワクチンは実は東南アジアの世界中で 11 カ国では臨床試験は通ったんですけれども、ただフィリピンでは重症患者、ワクチンを打った後に重症化した子どもたちも出てきましたので、その中で中止となりました。」

記者「じゃあ、ワクチンは完成しなかったということですか。」

モイ・メンリン教授「結局は実用化してなかったんですね。」"

"ナレ「実はこの重症化は従来のコロナウィルスで起きる可能性がある、既に猫に感染するウィルスでは確認されている、このため、今回の新型コロナウィルスでもワクチン接種後に重症化を引き起こさないか危惧しているという。」

モイ・メンリン教授「新しい病気ですし ADE がどれくらい起きるのかまだわかっていないですし、で、いきなりワクチンの開発を始めますよという園なんでしょう、全てが一気に始まっているところなんですよね、ですのでその基礎研究がまだ追いついていないところがあるんです。」

ナレ「ワクチンが早く完成することは誰もが願うところだがスピード感以上に大切なものがある。」

モイ・メンリン教授「日本国内でワクチン開発するのも重要だとは私思っています、その一方で冷静に考える必要があります。例えば日本で作ったワクチンが非常にいいワクチンが出てきた。まぁそういうッタバアはもう非常に理想的ですよね、我々もそういうことを望んでいるんですけれども、一方で沢山の人に摂取してしまった、でその後に重症患者も出てしまった、というリスクがあるかどうかもはっきりさせないといけないんですよね。」

ナレ「日本では近々新たなワクチンの臨床試験が始まる見込みだ。安全で有効な薬でなければ薬害の記憶はつきまとう。世界中の人たちが待ち望むワクチンはいつ手元に届くのだろうか。」

特集の VTR を受けて、以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられていた。

"膳場貴子「取材した MBS の橋本佐与子記者です。あの、実用化を急ぐために手続を簡略化したワクチン開発もありましたけれども安全性は大丈夫なんでしょうか。」

橋本佐与子「そこ気になりますよね、遺伝情報の解析が早くできるようになって、データも公開されるようになったので候補となる薬を作ることができる様になったのは格段と昔よりも早くなっているんですよね、その分、開発が進んで研究の異例の速さで研究が進んでいるんですけれども、でもワクチンとなると健康な人の体に打つものなので、あの承認を得るまでのプロセスというのが極めて難しいと言われています。最終段階の試験を日本がどこまで厳密に行うのか、そこはこの先ずっと注視してみていかなくてはいけないなと思います。」

日下部正樹「あのワクチン開発に羽根、医療だけではなく経済とか政治とか様々な思惑が絡んできますよね。」、

橋本佐与子「そうですね、あのまぁ先進国を中心にワクチンを開発したとか臨床試験を始めますと言った公表をした会社の株価が高騰するというような事態が起きていた、それは私は非常に残念に思っています。結果が出る前に先々の成功を見越して少し利益を求めて期待しているといった雰囲気というのがちょっと気になるなというふうに思っています、後はその国に関してもまぁロシアが急に世界で初めてワクチンを承認したと発表したり、つい先日も中国がワクチンを公表したりと言ったり国の威信も少し関わって来ているのかなというような印象が強いですね。」"

"金平茂紀「あの、ワクチンナショナリズムという言葉がありますけれども、今おっしゃったように国ごとの国威発揚、あるいは国内手金も大阪からいちはやくのようなある意味前のめりの弊害というはですね、橋本さんはどういうふうにお感じになりましたですか。」

橋本佐与子「そうですね、成功することが多くの人が願うことなのは間違いないと思うんですけれども、まずその成功というゴールありきで期限を決めていついつにはできますよというような発表をするというようなことに

は違和感を覚えてます、医学は不確実な要素が多いのでそれで本当に大丈夫なのかなという懸念もあります。ワクチンというのはやはりその簡単にできるものではなくて効果も人によって違うということをしっかりと理解しておく必要があるなと改めて思っております。」"

膳場貴子「以上特集でした。」

このトピックについて当てられた時間は 1623 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・【特集】問われる密室の総裁選

日下部キャスターがスタジオで「政治家の取材をしているとね、自民党というのは、野党がもっとしっかりしてほしいと思うぐらいですね、多士済々で人材がいるとおもうんですけど、安倍政権の７年半を振り返るとですね、官邸とその他大勢みたいな感じで、政治家の顔がなかなか見えてこなかったんですね。しかも政治家自身も官邸の方ばっかりむいて、本来振り返るべき有権者を見てもいなかった。これは一強政治の弊害だと思いますね。」とコメントしていたが、果たしてそうなのだろうか。

少なくとも安倍政権は７年半の政権で６回の国政選挙に連戦連勝であり、そのたびに有権者からの信任を得続けてきている。それは安倍政権の力だけではなく、各選挙区の政治家の力によるところも大きいはずであり、もし政治家が有権者を全く見ていなかったのであれば、こうした結果にはなっていなかっただろう。

また、他方で有権者の方にしても政権の方ばかり見て地元選挙区の政治家を政権を支える頭数の一つとしてしか見ていなかった、ということがあったのではないだろうか。

・【特集】ワクチン開発最前線その問題は

スタジオで橋本記者が「先進国を中心にワクチンを開発したとか臨床試験を始めますと言った公表をした会社の株価が高騰するというような事態が起きていた、それは私は非常に残念に思っています。結果が出る前に先々の成功を見越して少し利益を求めて期待しているといった雰囲気というのがちょっと気になるなというふうに思っています」とコメントしていたが、株式会社、資本主義社会というのはそういうものではないのだろうか。

会社が新しい製品やサービスのリリースに向けてのプランを発表すれば、それに期待できると考えた投資家が株を買うことで株価は上がるだろうし、実際に製品やサービスの実用化の目処が立てば、その分だけリスクから開放されたことでもって配当がより期待されるようになれば株価は更に上がるだろう。逆に製品やサービスの実用化に向けた動きが頓挫した場合は期待が実現しなかったということで株価は下がることもあるだろう。

仮にワクチンを開発したとか臨床試験を始めますと言った公表をしたにもかかわらず会社の株が横ばいであったり下落するようなことがあるとすれば、それはその会社が市場から全く期待されていないということであるのだから、「先進国を中心にワクチンを開発したとか臨床試験を始めますと言った公表をした会社の株価が高騰するというような事態が起きていた」というのはそれだけ、市場が会社に対して期待をしているということであり、それは喜ばしいことでこそあれ、残念に思うことでは全く無いだろう。